

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催フィールド言語学ワークショップ  
第21回文法研究ワークショップ  
「言語記述と文法化をめぐる諸問題」  
開催のお知らせ・募集要項

このワークショップでは、文法化というコンセプトの言語記述への応用について考えます。語彙的形式から文法的形式への発達、ないしは文法形式の機能や形式の変化といった通時的な視点を導入することにより、ともすると無関係にみえる共時的事実を関係づけ、整理できるかもしれません。こうした可能性について議論することが、このワークショップの目的です。

発表者にはこのテーマにそった形で具体的な事例を紹介していただきます。参加者には、それぞれの議論の妥当性を検討しながら、文法記述に文法化という通時的現象をどのように盛り込むことができるかについて考えていただきたいと思います。

記

1. 開催日時： 2022年3月5日（土）13:00–17:00
2. 開催場所： ZOOM 会議室（招待メールは開始1時間前までに参加者にお送りします）
3. プログラム： 12:50 開室  
13:00–13:10 古本真（AA 研特任研究員）  
趣旨説明  
13:10–13:40 古本真（AA 研特任研究員）  
「ザンジバルのスワヒリ語諸方言にみられる文法化の痕跡」  
13:40–14:10 宮川創（京都大学）  
「コプト語を中心にしたエジプト語史における動詞から接続詞への文法化」  
14:10–14:40 外賀葵（京都大学大学院／日本学術振興会／内蒙古大学）  
「モンゴル語2人称所有接語の文法化」  
14:40–15:00 休憩  
15:00–15:30 白田理人（広島大学）  
「北琉球奄美喜界島方言における文法化—疑問文末形式を中心に—」  
15:30–16:00 日高晋介（国立国語研究所）  
「ウズベク語における yot-「横たわる」を用いた補助動詞構造の差異」

16:00–16:30	倉部慶太 (AA 研) 「変化の漸次性：ジンポー語動詞の文法化」
16:30–17:00	参加者全員 全体討論

4. 参加資格： 上記のテーマに関心のある研究者・学生  
※大学院生以上を原則とします。それ以外の方についてはメールでご相談ください。

5. 定員： 20 名程度

6. 参加申込方法：下記 URL にアクセスして、専用フォームからお申し込みください。折り返し自動返信メールが届きますので、ご確認ください。  
なお、右記 QR コードからでも同じページにアクセスできます。



<https://lingdy.aa-ken.jp/activities/training-ws/220305-flws-gram/>

7. 申込締切： 2月28日(月)正午(ただし定員に達し次第締め切ります)

8. 問い合わせ先：

「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」事務局  
info-lingdy[at]aacore.net ([at]を@に変えて送信ください)

9. その他：

- ・ワークショップは日本語でおこないます。
- ・参加は無料です。

※ご不明な点がございましたら、上記「8. 問い合わせ先」までご連絡ください。

※文法研究ワークショップは、記述言語学を志す学生や研究者が最新の研究成果や調査データを紹介しあうことにより、学生・研究者の交流や、情報共有を行なうことを目的としたワークショップです。過去のワークショップにつきましては、以下をご覧ください。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/fieldling-ws/grammar-wr-ws>

主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」

以上